

日曜

強い風が旗座をなぎ倒し
身体の芯から体温を奪ってゆく

塩鮭、キャベツ、カップスープ・・・
たまご

侘びしい買い物だが文句はない
自由はないが平静だ

僕はあらゆる絆を放棄した
属することの煩わしさ故に

社会という舟に乗ってさえいれば
自然に様々な交流が生じるものだ

それ以上の何が必要だろう
国があり、町があり、人がいる——

国民として応分の負担をし
労働によって貢献する

政府によって治安は保たれ
老後も平和な生活を保障される

何時の時代でも勘違いする奴は必ず居る
孤独と孤立の区別さえ知らない奴が

季節が移り替わること
僕らが老いてゆくこと

涎を垂らすような言葉は要らない
一言、二言あればそれでいい

あらゆる欲望の根源は虚栄である
墮落とは、虚栄の熱れた汗を啜ることである

僕は強い風に向かって歩く
奪われる体温に天上の眠りを想いつつ

僕はあらゆる絆を放棄した
その方が踊りやすかったから

ゆるやかに
静かに
そして軽やかに

(2012.4.8)